

オピニオン

医療費を考える

北区支部 大野正博

最近の我が国のニュースには明るい話題が少ない。拓銀や山一証券に代表される金融機関の不良債権・企業の倒産の続出・過剰接待を含む贈収賄による公務員の不祥事・さらには少年による傷害事件の多発など、あたかも日本の将来には希望がないかのごとくであり、わずかに長野オリンピックにおける日本人の活躍のみが、一時期我々をおおいに沸かせるのみであった。

医療の分野においても景気のよい話は絶えて聞かない。我が国の年間医療費は28.8兆円であるという。厚生省は、国民医療費は年間1兆円ペースの増加を示しており、対国民所得比で見ても、1985年度の6.2%から95年度には7.1%と増大しており、高齢化社会の到来に備えて緊急の抑制を主張する。一方診療側は対GDP比で見ると(1995年)、アメリカの14.2%、ドイツの10.4%、フランス9.9%、イギリス・日本が7%であり、我が国の医療費はむしろ低水準であると言う。ここで日常診療に携わりながらも、病院経営に責任を持たない勤務医の立場から、傍観者的に考えてみた。

医療費の対GDP比では優等生であり、しかも平均余命や新生児死亡率などの指数に優れている我が国で、医療改革がなぜ必要なのであろうか。未曾有の少子・高齢化時代の到来に備える必要があることがその第一であるようである。現在でも一人当たりの年間医療費は、65歳以上の老人では約55万円で、平均医療費の3.11倍となる(95年)。厚生省の試算によると、全人口に占める65歳以上人口の割合が25%を超える2025年には全医療費の半分が老人医療費に使用されるという。また現在各医療保険制度の財政は大幅な赤字構造であり、例えば政管健保の単年度収支はマイナスで、積立金は底をついており、

市町村国保の3分の2が赤字であるなど。

医療費抑制を目的として、昨年9月にはサラリーマン本人の負担を1割から2割とし、薬剤費負担を導入したことは、記憶に新しいことである。このために外来患者の減少や、窓口で薬剤を減らしてくれとの患者の要望が少なからずあると伝えられる。しかし、これさえも当面の赤字対策で、効果は2年間しかもたないらしい。今回の改正だけでも、診療側にとってはかなりの負担となるのに、今後さらに厳しい抑制策が採られるとしたら、何割の医療機関が生き残っていけるのであろうか。現在でも民間病院の約30%、公的病院の約70%は単年度収支で赤字を計上していると言われる。

産業規模としては医療よりもパチンコ産業の方が大きく、30兆円を超えるとのこと。サッカーの応援でソウルやマレーシアへ大挙して出かけ、パリワールドカップツアーもチケットが手に入りにくいと聞く。こうしてみると日本人は、本当に金が無いのではなく、娯楽以外の得にならないものには出したくない気質を持った国民と思わざるを得ない。最近自己責任という言葉をよく聞くが、健康においても自己責任の考えが要求されるのではないのだろうか。病気になること自体は本人にとって不運であるが、必要な医療費に対する支払いはやむを得ないので、何でもタダ・保険がすべてやってくれるとの考えは、もはや許されない。本当に困っている人への配慮は必要であるが、我々も一時的な患者の減少があったとしても、自己負担率の見直しや健康保険料の値上げなどにもっと柔軟な姿勢はとれないものであろうか。

患者が安い料金で自由に好きな医療機関を受診し、医療機関は経営の苦勞をあまりしなくと

もよく、保険組合は黒字で、国や市町村の負担が今まで程度で、この先もうまくやってゆけるとは誰も考えないであろう。無い袖は振れない(厚生省) 対かすみを食って生きてはいけない(診療側) 的な対立ではなく、国民生活に不可

欠で重要な問題である医療を考える二者が、国民に対して必要な負担を訴える時期が、近づきつつあるような気がする。(開成病院)
(文中のデータの多くは「わかりやすい医療経済学」川渕孝一著より引用)

札幌の動き

… 3 月 …

- 2日・第2回予算委員会
 - ・第3回夜間急病センター運営委員会並びに深夜協力医との懇談会
- 4日・看護専門学校看護婦科卒業式
- 5日・看護専門学校看護婦科卒業式
- 6日・第12回医事紛争処理委員会
- 7日・税務個別相談
- 9日・第11回健康教育活動委員会並びに家庭医学講座講師を囲んでの懇談会
 - ・救急2次・3次病院長との懇談会
- 10日・第12回支部連絡調整会議
 - ・第18回三役会
 - ・第23回総務部担当理事会
 - ・札幌連打ち合わせ
- 11日・第12回財務経理部・会館部合同担当理事会
 - ・第6回医政部担当理事会
- 12日・看護専門学校看護・准看護婦科進級認定会議
 - ・介護保険制度に関する札幌市との打ち合わせ
 - ・第9回学術委員会
 - ・札幌医学会司会者との懇談会
- 13日・第25回理事会
- 14日・代議員会議事運営委員会
 - ・第26回臨時理事会
 - ・第84回札幌医定時代議員会
 - ・第62回札幌医臨時総会
- 16日・結核感染予防講習会
- 17日・第9回在宅療養支援委員会
- ・第11回広報委員会
- ・第5回広報部担当理事会
- 18日・市民健康教育講座講師を囲んでの懇談会
 - ・看護専門学校看護婦科講師会議
- 19日・道医医療情報政策部担当役員と札幌医政委員との懇談会
 - ・東区支部役員会
- 20日・第2回救急医療部・夜間急病センター合同担当理事会
- 22日・診療報酬点数表改正に伴う伝達講習会
- 23日・第2回定款・会費等審議会
 - ・第24回総務部担当理事会
 - ・札幌連打ち合わせ
- 24日・札幌地域産業保健センター運営協議会
- 25日・第27回理事会
 - ・札幌連連絡会議
 - ・第4回会員福祉部担当理事会
- 26日・中央区東支部役員会・総会
 - ・中央区西支部役員会・総会
 - ・東区支部総会
 - ・豊平区支部役員会・総会
- 27日・北区支部役員会・総会
 - ・白石区支部役員会・総会
 - ・南区支部役員会
 - ・西区支部役員会・総会
 - ・手稲区支部役員会・総会
- 30日・第5回地域社会部担当理事会
 - ・第12回医療保険指導委員会
- 31日・平成9年度精度管理に関する各臨床検査センターとの懇談会
 - ・看護専門学校後援会総会